

事業名	平成 30 年度域学連携人材育成事業	
活動 形 態	開催場所	のと里山空港ターミナルビル4階41会議室（輪島市）
	活動人数	26名
	期間	平成31年1月15日
活動概要	<p>「域学連携」において、地域住民と学生の交流促進だけでなく、地域の課題解決や学生の地域定着指向の向上による成果を創出するため、地域外から若手人材を受け入れる職員のスキルアップを目的とする。</p> <p>課題解決プロジェクトにおいて成果につなげるため、全国の取組事例を知るとともに、具体の課題から解決に向けた目標設定、達成に向けたプロセス設計まで、地方創生に資する域学連携プロジェクトの進め方について、学び合う機会とした。</p> <p><成功確率を上げるための域学連携研修></p> <p>日 程：平成31年1月15日（火）10:00～17:00</p> <p>参加者：26名（自治体職員、地域おこし協力隊、大学関係者等）</p> <p>○ 奥能登チャレンジインターンシップの紹介</p> <p>奥能登2市2町の受入担当者より、平成30年度のプロジェクトを踏まえ、取組概要や活動の背景、成果と反省点について報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「インバウンド受入体制底上げ作戦！」 輪島市企画振興部企画課 山吹 瑞恵 主事 ・「大学生が身近に感じる企業を増やそう！」 珠洲市企画財政課 杉盛 啓明 専門員 ・「イベントマーケターにチャレンジ！」 穴水町政策調整課 松尾 美樹 課長補佐 ・「能登の未来をデザインする！」 能登町ふるさと振興課地域戦略推進室 中 道紀 主査 <p>○ 講義①「新しい人材と地域住民がつながることでまちの未来図を描く」</p> <p>講師：大分県竹田市企画情報課TOP推進室 後藤 雅人 主査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国最多規模（77名/5カ年）の地域おこし協力隊が活動する竹田市を例に、全国から若者を呼び込み地域振興に取り組む中での成果と課題、対策方法について話があった。 ・課題としてサポート体制やビジョンの認識共有の重要性が高く、対策としてフォロー体制の強化に向けた対話の促進や具体的な募集要項（明確なプロジェクト）の提示を行う必要がある。また、体制の充実に向けてコーディネーターの育成にも力を入れている。 <p>○ 講義②「域学連携の基礎」</p> <p>講師：株式会社御祓川 代表取締役 森山 奈美 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・域学連携の位置づけや（手段の目的化に陥っていないか）、コーディネーター 	

の役割（プロジェクトデザイン、地域理解、コーチング等）、よくある失敗事例などについて確認した。

- “地域が本気で取り組んでいる現場に入るからこそ学生は育つ” “学生の本気を引き出せるか？” がポイントとなる。
- 域学連携のチェック項目に沿ってインターンシップの振り返りを実施。

○ プロジェクト設計ワークショップ

講師：株式会社御祓川 代表取締役 森山 奈美 氏

コーディネーター 岡本 竜太 氏

- 市町単位でグループを構成し、プロジェクト設計のワークシートに基づいて、①課題の明確化、②目標設定、③プロセス設計を実践するワークショップを行った。
- プログラムを考える担当者に対して、グループ内のメンバーや講師が質問を繰り返すことで、課題の認識、目標の立て方、ターゲットがよりクリアになっていった。